生成AI×特許SDIサービスの活用類型と選定ポイント(2026年版)

生成AIとSDIの3つの連動類型

1. 定期監視と生成AI処理の完全連動



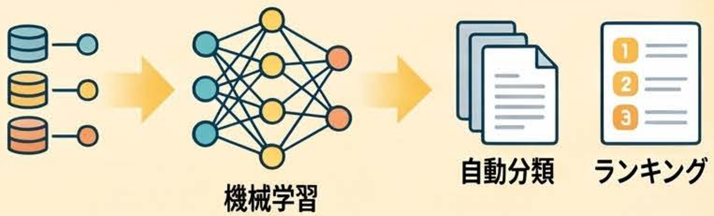
新着公報の取得から設定した要約・分類までを定期的に自動実行する。

2. 同一サービス内での機能併用



SDI取得後の個別査読時に、同じ画面内で生成AI機能を活用する。

3. 従来型AI（機械学習）による効率化



教師データによる自動分類・順位付けを中心とし、生成AIと区別する。

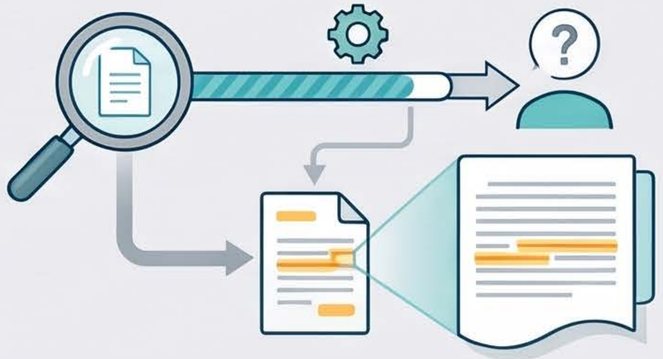


ベンダー比較時に提示して実務差を確かめるためのチェックリスト

比較項目	実務での確認内容
☑ 自動実行の範囲	新着取得後、どの操作まで人手なしで自動進行するか
☑ 相違の追跡	関連度判断の理由を請求項・段落・図面に戻って確認できるか
☑ 継続運用性	新着・既公開案件・権利変動・前回評価を明瞭に区別できるか

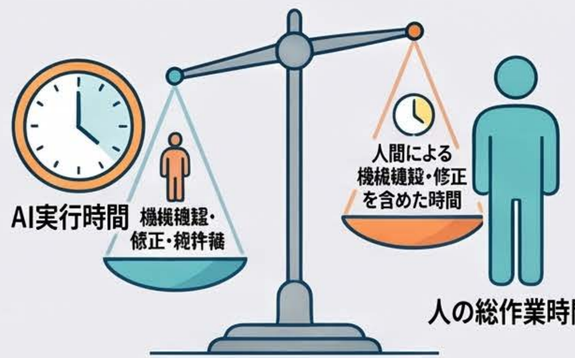
導入・更新時の比較評価ポイント

自動実行の限界範囲と根拠の追跡性を検証



人手なしで進む範囲と、判断理由を原文の段落・請求項へ遡れるか確認。

AI処理時間だけでなく「人の総作業時間」で削減効果を評価



AI実行時間に加え、人間による相違確認・修正・再評価を含めた時間で比較。

Gemini Notebook